

請求の範囲

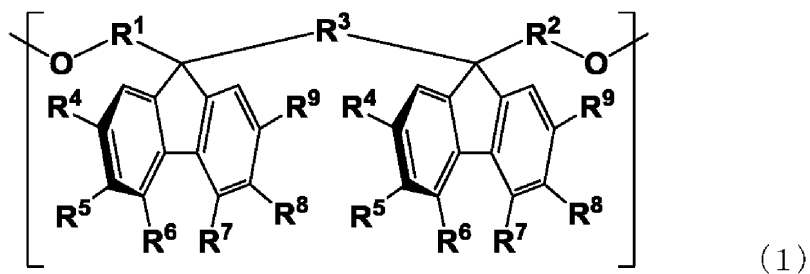
[請求項1] カーボネート結合およびエステル結合からなる群から選択される少なくとも1つの結合基と、下記一般式（1）で表される構造単位および下記一般式（2）で表される構造単位からなる群から選択される少なくとも1つの構造単位とを含み、正の屈折率異方性を有する樹脂と；アクリル系樹脂と；を含有し、

該アクリル系樹脂の含有量が0.5質量%～2.0質量%であり、

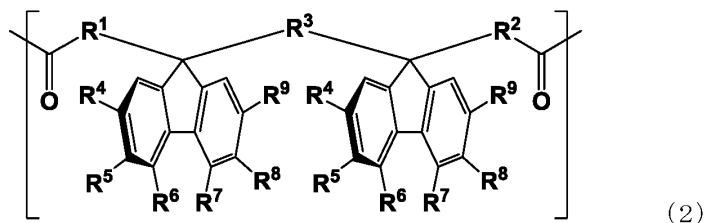
該アクリル系樹脂が、メタクリル酸メチル由来の構造単位を70質量%以上含有し、その重量平均分子量Mwが10,000～200,000であり、

Re（550）が100nm～200nmであり、Re（450）／Re（550）が0.5を超えて1.0未満である、位相差フィルム：

[化1]



[化2]



一般式（１）および（２）中、 $R^1 \sim R^3$ は、それぞれ独立に、直接結合、置換または非置換の炭素数１～４のアルキレン基であり、 $R^4 \sim R^9$ は、それぞれ独立に、水素原子、置換または非置換の炭素数１～１０のアルキル基、置換または非置換の炭素数４～１０のアリール基、置換または非置換の炭素数１～１０のアシル基、置換または非置換の炭素数１～１０のアルコキシ基、置換または非置換の炭素数１～１０のアリールオキシ基、置換または非置換のアミノ基、置換または非置換の炭素数１～１０のビニル基、置換または非置換の炭素数１～１０のエチニル基、置換基を有する硫黄原子、置換基を有するケイ素原子、ハロゲン原子、ニトロ基、またはシアノ基であり；ただし、 $R^4 \sim R^9$ は、互いに同一であっても、異なってもよく、 $R^4 \sim R^9$ のうち隣接する少なくとも２つの基が互いに結合して環を形成していてもよく；

$Re(550)$ は、 $23^\circ C$ における波長 550 nm の光で測定したフィルムの面内位相差であり、 $Re(450)$ は、 $23^\circ C$ における波長 450 nm の光で測定したフィルムの面内位相差である。

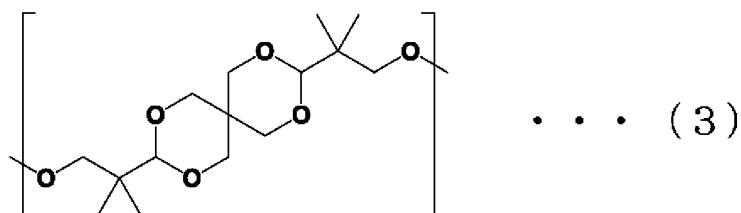
[請求項2]

前記正の屈折率異方性を有する樹脂が、前記一般式（１）で表される構造単位および前記一般式（２）で表される構造単位からなる群から選択される少なくとも１つの構造単位を１質量％～４０質量％含有する、請求項１に記載の位相差フィルム。

[請求項3] 前記正の屈折率異方性を有する樹脂が、下記一般式（3）で表される構造単位をさらに含む、請求項1または2に記載の位相差フィルム

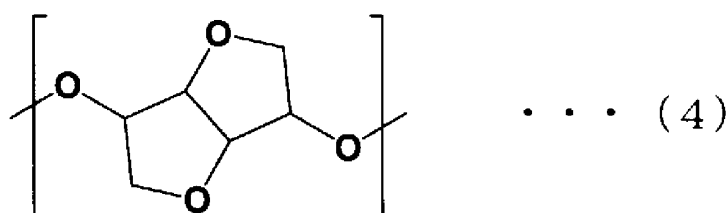
。

[化3]



[請求項4] 前記正の屈折率異方性を有する樹脂が、下記一般式（4）で表される構造単位をさらに含む、請求項1から3のいずれかに記載の位相差フィルム。

[化4]



[請求項5] ヘイズ値が1.5%以下である、請求項1から4のいずれかに記載の位相差フィルム。

[請求項6] 破断伸びが200%以上である、請求項1から5のいずれかに記載の位相差フィルム。

[請求項7] 限界複屈折 Δn が0.0039以上である、請求項1から6のいずれかに記載の位相差フィルム。

[請求項8] 請求項1から7のいずれかに記載の位相差フィルムの製造方法であって、

前記正の屈折率異方性を有する樹脂と前記アクリル系樹脂とを含有する樹脂フィルムを延伸することを含み、

該延伸が、該正の屈折率異方性を有する樹脂のガラス転移温度以下の温度で行われる、

方法。

[請求項9] 前記延伸が、長尺状の前記樹脂フィルムを長尺方向に搬送しながら行われ、

得られる長尺状の位相差フィルムの遅相軸方向が、長尺方向に対して $40^{\circ} \sim 50^{\circ}$ または $130^{\circ} \sim 140^{\circ}$ の方向である、

請求項8に記載の位相差フィルムの製造方法。

[請求項10] 偏光子と請求項1から7のいずれかに記載の位相差フィルムとを有し、

該偏光子の吸収軸と該位相差フィルムの遅相軸とのなす角度が $40^{\circ} \sim 50^{\circ}$ または $130^{\circ} \sim 140^{\circ}$ である、

円偏光板。

[請求項11] 請求項10に記載の円偏光板を視認側に備え、該円偏光板の偏光子が視認側に配置されている、画像表示装置。